地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（ウトロ地域）

●サケ･マスの自然産卵環境の保全と拡大（継続）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）

地域 MV における取組の位置付け	**【地域の将来像】** サケ･マスの自然産卵環境の保全と拡大 **【主な取組】** ・サケ･マス自然産卵調査 ・魚道清掃の実施 ・可搬魚道の設置、試験 ・遡上障害改良に向けた河川管理者等との協議 ・斜里海浜サケ･マス釣りルールの啓発 ・サケ･マス釣りルールの制度化に向けた取り組み ・漁業者や町民による海浜域でのゴミ拾いの実施	取組場所
取組内容に関連する実施の現状と課題	**【現状】** ・サケ資源の不安定化、カラフトマス資源の激減 ・サケ･マス遡上障害の存在、自然産卵環境の悪化 ・サケ･マス釣りの過熱による遡上資源への影響や地域との軋轢 **【課題】** ・サケ･マス遡上環境、産卵環境の改善 ・サケ･マス資源の遺伝的健全性の確保 ・斜里海浜サケ･マス釣りルールの定着 ・海浜サケ･マス釣りルールの制度化	
取組による効果（数値目標）	・新規の遡上改善箇所数 4 箇所 ・竿 3 本ルール遵守率 98%以上	

（2）取組内容・実施体制（Do）

取組内容、方法、手順、実施体制	当地域はサケ･カラフトマスが漁獲の 8 割近くを占めるが、近年は漁獲が減少傾向にある。 研究者等からは、長期的なサケ･カラフトマス資源の底上げと安定化のためには、ふ化放流事業の強化に加えて、遺伝的健全性の確保のためには、自然産卵環境の保全と拡大も重要と指摘されている。 このことから、サケ･マスの産卵状況の把握、および産卵環境の保全や拡大、斜里海浜サケ･マス釣りルールの定着に向けた取組を関係者が連携して行う。 ・サケ･マス自然産卵調査 自然産卵状況の把握のための現地調査を実施した。 （降下稚魚調査を 3 河川で 8 回、遡上産卵調査を 6 河川で 4 回実施） 殆どの河川で前年に比べてサケの遡上数が減少しており、カラフトマスの遡上数はごく僅かであった。 稚魚については、フンベ川では昨年に比べて減少し、オチカバケ川とシマトツカリ川では昨年並みの降下が見られた。 ・可搬魚道試験 香川高専と協力して、安価で迅速に設置できる可搬魚道の設置と運用試験を行った。 （海別川、シマトツカリ川にて 9 月 8 日～11 月 6 日で実施） 設置や製作については、より簡易な方法となるよう工夫し、一定の成果が見られた。 遡上状況については、インターバル撮影カメラにて確認し、例年に比べて遡上数は少ないものの、遡上自体はスムーズに出来ていることを確認した。 ・魚道清掃 漁協青年部や漁協職員による奥藥別川の魚道群の清掃を行い、11 基中 5 基の清掃を行った。（7 月 25 日　11 名参加） 清掃できなかった 6 基については、河川管理者に対して報告と併せた清掃の要請を行い、8 月中に清掃が行われた。 また、ペレケ川、奥藥別川の魚道については定期的にパトロールを行い、必要に応じて随時清掃を行った。

関連資料

【取組の様子】

降下稚魚調査

魚道清掃

可搬魚道設置

密漁対策草刈

・密漁対策
これまで密漁が多かった河川において、密漁者の発見を容易にするため、関係者合同による草刈りを行った。（9 月 1 日,2 日　50 名）
このほかに監視カメラ設置、夜間ドローンパトロール、関係者が協力した監視体制を構築した結果、今年度は組織的な密漁被害は発生しなかった。

・河川管理者等との協議
河川管理者等への魚道改良の要請、魚道清掃の要請等を行った。
このことにより、管理者による魚道の清掃が行われたほか、数値目標の達成度評価に記載した以外にもペレケ川、オチカバケ川、奥藥別川で魚道改良の検討が進められている。

・斜里海浜サケ･マス釣りルール
釣竿 3 本以内、釣獲尾数 3 尾以内を基本とする斜里海浜サケ･マス釣りルールの運用と啓発等を行った。
（現場啓発を 8～11 月で 52 日実施）
ルールの定着が一層進み、海浜環境や住民生活への影響の緩和が見られた一方で、新たな課題も確認された。

・海浜サケ･マス釣りルール制度化に向けた協議
釣竿 3 本以内、釣獲尾数 3 尾以内を制度に基づいたルールとするため、北海道等との協議を行った。
今後は漁業調整委員会指示によるルールへの裏付けが望まれる。

・クリーンアップ作戦
初めての試みとして、3 本 3 尾を基本とするサケ･マス釣りルールを運用する 1 市 2 町地域が連携して、網走･小清水･斜里合同！
海浜サケ･マス釣りルール啓発＆クリーンアップ大作戦を開催した。（9 月 12 日実施で 123 名が参加）
このほかに斜里海浜サケ･マス釣りルール啓発＆クリーンアップ作戦を開催した。（9 月 22 日実施で 39 名が参加）

大作戦開会式

啓発＆クリーンアップ

海浜の様子

（3）効果項目に対する評価（Check）

数値目標の達成度評価

・遡上改善箇所数 5 箇所（うちマリンビジョン改定以降の新規 1 箇所）
新規：　フンベ川魚道完成 1 基（北海道森林管理局）
継続：　ペレケ川隔壁改良試行 3 基、魚道清掃 1 基
シマトツカリ川可搬魚道設置 1 基
海別川可搬魚道設置 1 基
奥藥別川魚道清掃 5 基

・竿 3 本ルール遵守率 99.3%（n=2,422 人）

反省点

・ペレケ川やオチカバケ川、奥藥別川等では、サケの遡上が難しい箇所があり、上流の良好な産卵環境へ遡上できている数が少ない。
・魚道清掃については、2 河川を 1 年おきに清掃しているが、1 年の間に詰まっている状況もある。
・可搬魚道については、増水時の破損が生じ、修理が必要となった。
・オチカバケ川等では、河口で釣られているサケの数に比べて、河川内に遡上しているサケの数が少ない。
・斜里海浜サケ･マス釣りルールについては、お願いベースのルールであり、啓発頻度が下がると、遵守度合いも下がる傾向がある。
・テントの 24 時間以上の設営、竿立てによる場所取りなど、啓発時に把握しづらいルール違反への対応に苦慮した。
・サケ･マス資源の減少のスピードが想定以上に早く、現状の対応やルールの内容が適当ではない可能性がある。

ルール看板

海浜の様子

（4）取組の改善措置（Action）

取組内容の改善点

・河川管理者等と情報共有を進め、優先順位を検討し、遡上困難箇所の改良に向けた協議を進めていく。
・可搬魚道の実用化に向け、試験を継続していく。
・オチカバケ川他 2 河川については、河口での釣り規制の設定に向けて北海道等に要請を行う。
・サケ･マス釣りルールの制度化に向けて、網走市や小清水町とも連携して、権限を有する北海道等への要請を行う。
・ルールを守らない釣り人に対し、釣りルールの本旨は環境や資源保護である旨を説明していく。
・まずは現在行っている取組を着実に進め、さらにサケ･マス資源減少への危機感を関係者で共有し、必要な対応を検討していく。

取組の実施に必要なもの

・遡上障害解消のための安定財源
・可搬魚道等の技術の蓄積
・河川管理者や遊漁者の理解

●鮭，日本一のまちＰＲ（継続）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）

地域 MV における取組の位置付け

【地域の将来像】
漁業と観光の相乗効果

【主な取組】
・知床鮭を冠としたイベントの開催
・地域ブランドとしての知床鮭の名称普及
・ウトロ鮭テラスの普及
・飲食店での鮭料理提供

取組場所

取組内容に関連する実施の現状と課題

【現状】
・平成 28 年にウトロ漁港人工地盤供用開始
・令和元年にウトロ漁港人工地盤に「ウトロ鮭テラス」の愛称を付与
・令和 4 年以降で斜里町は鮭の漁獲量が日本一

【課題】
・鮭の普及に向けて、関係者の意識の共通化
・鮭日本一の町の認知度向上を、鮭の価値向上に結び付ける
・知床鮭ウィークのイベント感を向上させる

取組による効果（数値目標）

・鮭単価全道対比 105%

（2）取組内容・実施体制（Do）

取組内容、方法、手順、実施体制

・日本一の旬を味わう！知床鮭ウィークの開催（令和 6 年 10 月 1 日から 10 月 10 日まで）
ウトロ地区の 4 軒の大型ホテルに向けて知床鮭 150 尾（15 尾×10 日）を無償提供した。
ホテル側では、提供された鮭を展示や各種料理に活用した。
4 軒のホテルでは、鮭のトークショーを行い、演者 5 人により場所を変えて毎日 2 回（1 回目 19:30-20:00、2 回目 20:30-21:00）開催した。
10 日間で計 20 回、427 名の参加があり、リピーターも現れるなど、大きな手ごたえがあった。
斜里市街を含む 4 店の飲食店に向けて、銀毛の鮭 90 尾（9 尾×10 日）を無償提供した。
提供方法については、昨年度までは配達方式であったが、今年度は飲食店側が漁港に受け取りにくる方法に改めた。
飲食店側では、特別メニューとして来店客へ提供し、非常に好評であった。

・ウトロ鮭テラス普及
美化と観光資源化を目的としたウトロ鮭テラス大掃除を令和 7 年 9 月 5 日に開催し、69 名の参加があった。
大掃除終了後に、ガイド事業者等を対象とした鮭テラス勉強会を開催し、43 名の参加があった。
水揚げ見学情報をホームページに掲載し、毎日更新した。
見学窓の鳥糞清掃を週 2 回の頻度で実施した。

・そのほかの取り組み
鮭漁師祭り：イクラ丼無料配布、即売会、ふるさと納税受付等（12 月 3 日　札幌チ･カ･ホ）
SALMON STUDY TOUR：鮭テラスやペレケ川見学、ホテルでの知床鮭解体ショー等（10 月 11 日　20 名参加）
給食への食材提供（10 月 21 日、11 月 18 日　延べ 1,000 食）
SNS（インスタグラム）キャンペーン

（3）効果項目に対する評価（Check）

数値目標の達成度評価

・鮭単価全道対比 94%（北海道水産現勢 2023 年値より）

関連資料

【取組の様子】

鮭トーク

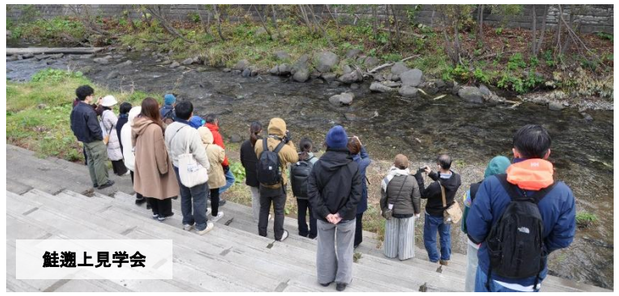
鮭解体ショー

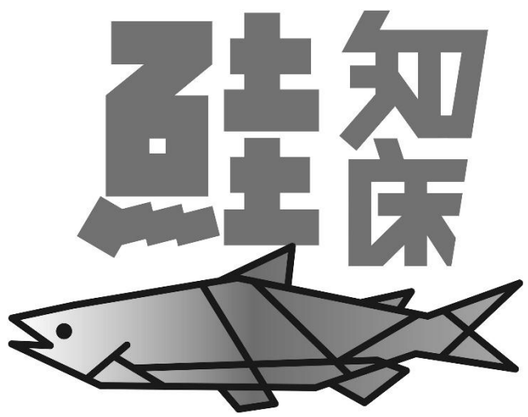
提供の鮭による知床鮭弁当

反省点	・イベントは定着しつつあるが、そのことがブランド化、価格の上昇まで結びついていない。 ・令和７年はサケが極度の不漁であり、本来は最盛漁期のはずである知床鮭ウィークの期間ですら休漁となる日が多かった。
（4）取組の改善措置（Action）	
取組内容の改善点	・知床鮭ウィークについては、漁業関係者とホテル関係者での意識の共通化を図り、お互いにメリットのある取り組みに成長させる。 ・知床鮭の名称普及に向けて、関係者の意識を共通化する必要がある。 ・サケ資源の安定化に向けて、さらに取り組む必要がある。
取組の実施に必要なもの	・人工地盤（鮭テラス）については、手摺が若干高く、女性や子供には見学しにくいことから、安全に配慮したうえでスリット化などされると良い。また、鳥の糞が手摺に付着するため、防鳥対策が望まれる。 ・ＰＲ資材製作や事業運営、プロモーションのための資金。 ・効果的なプロモーションの実施。

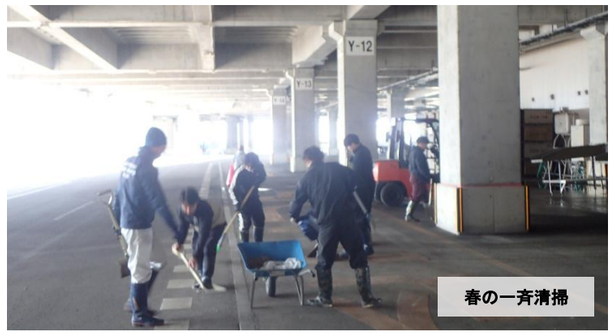
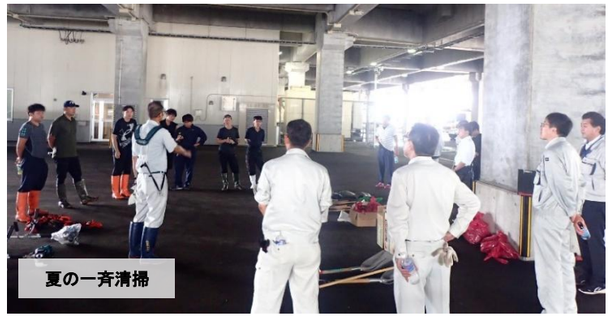
鮭テラス大掃除

鮭テラス勉強会


鮭遡上見学会



●衛生管理と高鮮度出荷体制の充実（継続）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）			関連資料
地域 MV における取組の位置付け	【地域の将来像】 衛生管理と高鮮度出荷体制の充実 【主な取組】 ・衛生管理マニュアルの実践 ・衛生管理講習会の開催 ・鮮度保持タンク整備	取組場所 	【取組の様子】 衛生管理講習会  春の一斉清掃  夏の一斉清掃 鮮度保持タンク
取組内容に関連する実施の現状と課題	【現状】 ・平成 28 年からウトロ漁港人工地盤 1 階の衛生管理エリアでの荷捌開始 ・衛生管理マニュアルの運用 【課題】 ・物流 2024 問題による運送環境の変化 ・ウトロ漁港人工地盤 1 階の衛生管理エリアの水溜まり対策、防鳥対策		
取組による効果（数値目標）	・鮮度保持タンク整備数 460 基		
（2）取組内容・実施体制（Do）			
取組内容、方法、手順、実施体制	・衛生管理マニュアルの運用 ・ウトロ漁港衛生管理エリア一斉清掃：令和 7 年 5 月 1 日、7 月 28 日、9 月 5 日 ・衛生管理体制の現地確認　：令和 7 年 7 月 28 日ウトロ漁港 ・衛生管理講習会：令和 7 年 3 月 18 日開催 ・衛生管理エリアの入り口に、来訪者用の長靴と帽子を備え付け、管理を行った。		
（3）効果項目に対する評価（Check）			
数値目標の達成度評価	・鮮度保持タンク整備数 390 基		
反省点	・越波対策の大型土嚢から土砂が漏れ、路面が汚染されることがあった。		
（4）取組の改善措置（Action）			
取組内容の改善点	・令和 7 年度についても春、夏、秋の 3 回の清掃を予定する。		
取組の実施に必要なもの	・用地の水溜まりや、岸壁の不陸の改善		